

聖職候補生 養成委員会活動報告

二〇二〇年末現在、神戸教区には二十八の教会があり、現在信徒数一九八〇名、現在聖信受領者数は一〇一名、聖職者数は二十四名です。

〈当委員会の具体的活動〉

聖職候補生養成委員会は、一九六八年に聖職候補生および聖職候補生志願者および伝道師志願者を物心両面から支援するために立てられた教区の委員会です。具体的には教区で認められた聖職候補生が神学校で学ぶために必要な精神的および経済的支援を行います。また聖職候補生は夏休みや冬休みの長期休暇に入ると神学校の寮を出て教区内の指定された教会で指導司祭のもとで実習を行います。当委員会は、この実習に関する準備を行い、実習期間中に必要な支援を行います。

また一九八四年からは、教区内の聖職志願者を対象に当委員会主催で「召命黙想会」が修道院で開催されるようになりました。将来、聖職を目指す人々がより確かな召命感を得られる機会となるように祈りながら準備を行っています。

〈聖職養成に必要なこと〉

ところで、聖職養成は言葉で言うほど簡単ではありません。なかなか志願者が現れませんが、どうすれば志願者が与えられるのか、委員会として心がけていることがあります。

第一は、教会の存在目的と将来のビジョンを明確にすることです。聖職志願者が与えられるためには、何故、教会がここ日本に存在するのか。また、神の御心とそれに応える将来のあるべき教会のビジョンは何かについて教区全体が共通の理解をもって活動することです。その存在目的とビジョンが明確であれば、教区の働きは活発になり、その働きに共に参加したいと願う信徒、またその中から聖職志願者が生まれてきます。

第二は、聖霊の働きと祈りです。聖職が与えられるということは決して人間の努力によつて出来ることではありません。人が聖職に召されると言うことは、神様の一方的な選びであつて、そこでは聖霊なる神が既に働かれています。ですから、聖霊が働いて志願者が与えられるように教区の全ての聖職と信徒は心をひとつにしていつも神に祈り求めることが重要です。

第三は、聖職志願者が生まれるための土壌をつくることです。例えば美味しいお米を作るために、人は土を掘り起こし、苗を植え、水を与えます。確かに美味しいお米は神の恵みによつて成長して作られますが、そのための準備はわたしたち信徒の大切な働きです。

具体的には召命育成の第一の牧会的土壌は「家庭」です。家庭に於いて、子どもたちが小さいときから神への祈りと隣人への献身的奉仕、また教会に対する愛着心を持てるように普段から意識して育てることです。

召命育成の第二の牧会的土壌は「教会」です。特に日曜学校の働きは重要です。教会に日曜学校を作ろうという意識があるか否かによつて、その教会あるいは教区の将来が変わってきます。日曜学校の子どもたちはやがて成長して、青年、壮年となり教会を支えます。ですから、将来の教会のビジョンを描きながら、今、教会が取り組まなくてはなら

ないことは何かを明確にし、即実行することです。「そこで、弟子たちに言われた。『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださいるよ』」(マタイ福音書第九章三十七三十八節)

このように聖職養成は決して目先の簡単に出来る問題ではありませんが、教区の全ての聖職と信徒が心をひとつにして、手間ひまかけて準備しながら、後は聖霊の働きに委ねて収穫を待つのです。

聖職候補生養成委員長
司祭 芳我秀一

オンライン 神学塾セミナー

神学塾運営委員会では「コロナ禍における教会」をテーマにオンラインセミナーを開催しています。(全3回)

《第2回》「神とパンデミック」
(主教トム・ライト著)から

スピーカー 司祭 永野拓也

日時 10月23日(土) 10:00~12:15

《第3回》「神がいるならなぜ悪があるのか」
(クラス・フォン・シュトシュ著)から

スピーカー 司祭 林 和広

日時 10月30日(土) 10:00~12:15

内容 講話、グループディスカッション、
全体の分かち合い。

- * オンライン開催(ZOOM) 参加費無料
- * 申込先: Eメールでお申込み下さい
e-mail: kobeshingakujuku@gmail.com
- * お問い合わせ先: 司祭 永野拓也
上記e-mailまたは
0823-21-5611 呉信愛教会まで

オーガスチンの まなざし



主教 小林 尚明

「主教さん、 祈りが聞かれました!」

ある信徒の方と電話でお話していただきました。「私は『み国が来ますように』(Thy Kingdom come)』の担当主教なんだけど、何かいい話はないですか。あればみなさんに紹介したいんだけど」と尋ねてみました。その時の返事の第一声です。

その方は、昨年、教会に行った時に受付に「祈りのしおり」があつて、家に持ち帰り、四名の方の名前を書き、祈り始めたそうです。お祈りは、夜一人でされました。こうしたしおりがあれば、励みになるし、簡単な説明があつて、良かったとのことでした。一人の方は、幼い子どもの頃から知っている人で、しばらく教会から離れている方でした。その人のために祈っている、今年のイースターに信徒のご両親を車に乗せて、礼拝に来られたそうです。「『うそー』と思ったんだけど、とつても嬉しかった」と

のこと。

もう一人の方は、私が知り合いになって、「土曜日の掃除の人手がなくて困っている」という愚痴を言ったら、「じゃ、手伝ってあげる」ということになって、掃除を手伝ってくれることになった。またバザーの準備なんかも手伝ってくれていた。この方が、クリスチャンになってくれないか、と祈っていたそうです。「あんまり、直接『クリスチャンになったらどう?』と言うのもどうかと思って、何も言わずに祈っていた。すると三年くらい掃除のお手伝いをしてくれていたと思うけど、昨年のクリスマスに洗礼を受けてくれたの。嬉しかったです。今度、主教さんから接手を受けるのよ」と喜ばれていました。そのお話を聞かせてもらって、私の方が恵まれました。

「2023年版、 祈りのしおり」

今年の六月の主教会で、来年のしおりは、私たちが作ってみないか、という相談がまとまりました。十一日間ですから、各主教が一日を担当し、一人足りないところは、管区事務所の矢萩新一総主事にお願ひしました。どんなしおりになるか楽しみです。来年的のイースター頃には、みなさんのお手元に届くと思います。お楽しみに。

(神戸教区主教)

第二回ハラスメント防止 対策研修会の報告

神戸教区からハラスメント対策委員として西日本宣教協働区会場で七月二十四日(土)にオンラインで第二回ハラスメント防止対策研修会に参加しました。

講師の金香百合さん(ホリスティック教育実践研究所所長)から講義後いくつかの課題が出され、グループに分かれて、いろいろな教区の参加者とのディスカッションができました。

研修内容は三部で構成されて、主に次のような内容でした。

第一部は「人間の光と闇」と題されて、自尊心・エンパワー・暴力関係について話を聞きました。「一般的に人は元気に幸せに生きる。やりたいことが湧き出るエンパワーの状態にいる。一方、被害を受けて闇に陥る人はエンパワーできない。表情なく笑わず、否定的な言葉が出る。私達は

ました。「ハラスメント対応」とは人間の闇に向き合い、責任を負う立場にある。」とのことでした。

この人に寄り添い、回復力が湧き、よい環境に向け自己選択できるような支援する。教会コミュニティの中でハラスメントが起きたら問題解決の中で働く。私達は当事者かつ支援者です。当事者が力を出せるように関わる。そのために人間力(自尊心・自己肯定)、社会力(生きる。社会変革)、対話力(直接的な会話関係)を育てる。加害者の心と暴力性について見つめる。」等です。

第二部は「自分の暴力性に向き合う」として加害者・傍観者を中心に「私達も自分の中の暴力性に向き合い、自分に向く暴力・人に向く暴力について考える。傍観者は既に加害者です。私達は責任者として被害者に関わる。」ことが求められました。

第三部は「良い環境をつくる責任は誰にあるのか」としてハラスメント対応について伺い

ハラスメント問題の被害者支援と加害者更正のためのポイントとして「ホリスティック・アプローチ」という方法が紹介されました。これはハラスメント行為のみを取り立てるのではなく、その背景にある加害者自身の問題を丁寧に取り下げ、包括的にアプローチしていく方法です。また被害者に対しても被害事実のみならず、それによって生じた様々な問題に対して丁寧に関わっていくことが求められているとのことでした。

特に支援の基本は「早期に、良質のケアを・集中的に当事者の回復のプロセスの全体を意識しながら、加害者更正にもエネルギーをかける」ということでした。

ハラスメント対応をより深く研修することにより、教会コミュニティが成長するよう支援したいと思います。

(ハラスメント対策委員
佐賀有道)

鳩だより

〔敬称略〕

祝 堅 信

八月二十九日(日)

スザンナ 前林 三智子
徳島インマヌエル教会

ご 逝 去

八月十五日(日)

ル ツ 井上 千恵子
高松聖ヤコブ教会

教 籍 異 動

七月二十七日(火)

玉島福音ルーテル教会より
倉敷聖クリストファー教会へ
中川 喜久美

二〇二一年 広島平和礼拝報告

二〇二一年八月六日、巡礼地ヒロシマは、他県からの移動を自粛して頂くため、教区行事は中止としましたが、今年も教派を超えた広島のカトリック者は、祈りを合わせて、以下の平和礼拝を開催し、酷暑の中、聖公会の聖職・信徒も参加・協力をいたしました。「平和のための祈りの集い(日本聖公会とカトリック教会合同)」は八月五日夕方・平和記念公園原爆供養塔前へ。「原爆死没者慰霊行事(広島県宗教連盟)」は八月六日早朝・



(8月6日YouTube配信動画のTOP画面)

同上へ。「八・六キリスト者平和の祈り(キリスト教超教派)」は八月六日十四時・日本基

督教団流川教会(当日の様子は、同教会のHPをご覧ください)。

聖公会・広島復活教会の平和礼拝は、原爆投下時刻(八月六日・八時十五分)に遠隔地の方々と祈りを合わせるため、教会内の宣教委員会による、聖堂のWiFi化、機材の準備、PCとの接続、YouTubeの配信設定、音声の最適化のテストなど準備を重ね、原爆記念日当日の礼拝ライブ配信を行うことができました。再生回数が一週間で三〇〇回を超えたことは、配信チーム一同、大きな励みとなり、今後の教区行事を計画する上でも貴重な経験になったと感謝しております。八月六日は単なる歴史上の日付ではなく、今でも現実の日。「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませんから」という碑文が刻まれている平和記念公園・原爆慰霊碑に納められている原爆死没者名簿には、今年も新たな被爆死没者のお名前が書き加えられました。キリストの平和。

(広島平和礼拝実行委員長
司祭 藤井尚人)

教区新型コロナウイルス 感染症対策室からの お知らせ

対策室では緊急事態宣言により教会の礼拝を自粛せざるを得なくなった場合などに、その教会の信徒・関係者の皆様に対する礼拝支援として教区のホームページから左記の内容を配信しております。どうぞ、ご利用ください。

- 一. 自宅での祈り(式文)
- 二. 特祷・聖書日課
- 三. 主日の説教動画

(但し緊急事態宣言発出期間内)
(対策室長・司祭 瀬山会治)
〈教区ホームページのURL〉
<https://www.nsk-kobe.org/>



お詫びと訂正

神のおとずれ七月号四頁の《信岡章人司祭から伺った二師の思い出》の記事の二段目(紙面全体では五段目)の右から五行目に、十歳とあるのは誤りで、正しくは三歳です。お詫びして訂正させて頂きます。
(歴史編集委員会)

11月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2021年11月4日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 輿賀田光嗣

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、ご出席される方は、事前に教区事務所までお問合せ下さい。よろしくお願い致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

*11月の記念逝去教役者

1日	司 祭	レイモンド	クリストファー
3日	司 祭	パウロ	山本 早太
4日	司 祭		山 辺 久吉
8日	宣教師	ヴァイオレット	ハ イ ド
9日	司 祭	アンデレ	児 玉 正世
13日	司 祭	モーセ	木 俣 茂世
17日	伝道師	ルデヤ	内 田 歌子
17日	司 祭	ウイリアム	ハ ン コ ッ ク
18日	伝道師	チッポラ	末 好 信子
19日	司 祭	ヨハネ	側 垣 正己
20日	司 祭	パウロ	秋 田 哲三
22日	伝道師		塩 原 以満
28日	宣教師	ジャネット	マ ッ キ ート
30日	宣教師	エイミ	ボサンケ ッ ト

※逝去年月日不明の方々もお祈りします。